対談

二十一世紀への対話［中］

池田大作

アーノルド・トインビー

聖教ワイド文庫

聖教ワイド文庫 009

池田大作

対談 二十一世紀への対話［中］

アーノルド・トインビー

聖教新聞社

〈対談者略歴〉

アーノルド・J・トインビー

(Arnold J. Toynbee)

1889年、ロンドンに生まれる。オックスフォード大学卒業。古代史専攻。ロンドン大学教授、王立国際問題研究所研究部長などを歴任。主著に『歴史の研究』(全12巻)など。1975年没。

池田大作(いけだ・だいさく)

1928年、東京に生まれる。創価学会名誉会長、創価学会インタナショナル(SGI)会長。創価大学、創価学園、民主音楽協会、東京富士美術館などを創立。主著に『人間革命』(全12巻)など。

聖教ワイド文庫——009

二十一世紀への対話〔中〕

発行日 二〇〇三年一月二十六日
第五刷 二〇一一年七月 三十 日

著 者 池田大作
A・トインビー

発行者 松岡 資

発行所 聖教新聞社
〒(162-8689) 東京都新宿区信濃町一八
電話〇三—三三五三—六一一一(大代表)
振替口座 〇〇一五〇—四—七九四〇七

印刷・製本 大日本印刷株式会社

*

落丁・乱丁本はお取り替えいたします
©2003 D. Ikeda, A. J. Toynbee, Printed in Japan

定価はカバーに表示してあります
ISBN978-4-412-01216-5

目　次

第二部　政治と世界……7
第一章　二十世紀後半の世界……9
1　先進国と発展途上国……9
2　アメリカ合衆国……15
3　宇宙開発競争……27
4　日本とイギリス……30
5　王制の将来……39
6　国家解消論……44
7　民族再建と共産主義……56
8　愛国心と人類愛……69

第二章　軍備と戦争……75
1　経済発展と戦争……75
2　原子力の平和利用……80
3　代理戦争とアジア……84
4　〝平和憲法〟と自衛……92
5　未来の世界警察軍……102
6　戦争の本質と今後……110
第三章　政治体制の選択……119
1　指導者の条件……119
2　ファシズムへの防塁……127
3　目的・手段と権力悪……133
4　民主主義と独裁制……144
5　民主主義とメリットクラシー……155

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

第四章　一つの世界へ……169
1　新たな国際通貨を求めて……169
2　東アジアの役割……177
3　中国と世界……192
4　日本が貢献する道……204
5　二極時代から多極時代へ……209
6　世界統合化への課題……219

聖教ワイド文庫 009

池田大作

対談 二十一世紀への対話［中］

アーノルド・トインビー

聖教新聞社

The Toynbee-Ikeda Dialogue by Kodansha International Limited
and Choose Life by Oxford University Press
©Daisaku Ikeda and the Executors of the Estate of
the late Arnold J. Toynbee 1976

目　次

第二部　政治と世界……7
第一章　二十世紀後半の世界……9
1　先進国と発展途上国……9
2　アメリカ合衆国……15
3　宇宙開発競争……27
4　日本とイギリス……30
5　王制の将来……39
6　国家解消論……44
7　民族再建と共産主義……56
8　愛国心と人類愛……69

第二章　軍備と戦争……75
1　経済発展と戦争……75
2　原子力の平和利用……80
3　代理戦争とアジア……84
4　〝平和憲法〟と自衛……92
5　未来の世界警察軍……102
6　戦争の本質と今後……110
第三章　政治体制の選択……119
1　指導者の条件……119
2　ファシズムへの防塁……127
3　目的・手段と権力悪……133
4　民主主義と独裁制……144
5　民主主義とメリットクラシー……155

第四章　一つの世界へ……169
1　新たな国際通貨を求めて……169
2　東アジアの役割……177
3　中国と世界……192
4　日本が貢献する道……204
5　二極時代から多極時代へ……209
6　世界統合化への課題……219

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo

本書は、著者の了解を得て、株式会社 文藝春秋、株式会社 講談社発行の『二十一世紀への対話』を三分冊し、「第二部　政治と世界」の「第一章　二十世紀後半の世界」から「第四章　一つの世界へ」までを〔中〕として収録したものです。

――編集部

第二部　政治と世界

第一章　二十世紀後半の世界

1　先進国と発展途上国

池田　世界平和にとって、南北問題――すなわち、富と技術の北半球への集中から生じている諸問題――は、きわめて重要な、同時に非常に解決困難な課題です。

それに比べれば、東西問題のほうがまだ解決しやすいとさえ思えるほどです。今日みられる東西の対立も、多くはそこに南北問題が絡んでおり、それが解決をより困難にしているようにみえます。そうしたことから、南北問題が解決をみれば、東西問題の噴出の場がなくなり、対立も緩和されるのではないでしょうか。

南北問題のむずかしさは、先進国と発展途上国の格差が、たんに経済問題にかぎらず、政治、社会、文化、教育など、およそ人間の営みのすべての面にわたっているこ

とにあります。つまり、人類の歴史におけるさまざまな発展段階の様相が、あたかも現代という時代に、この地球上に横に分布しているかのようです。

しかも、その差は縮まるどころか、年を追って激しくなる一方です。それはちょうど同じ十年でも、近代以前における十年と、産業革命以降の、とくに最近の情報化時代の十年とでは、発展の速度に格段の差があるようなものです。こうしたさまざまな発展段階にある国々が、同じスタートラインに立たされて競争している――これが現状のように思われるのです。

自由競争の原則でいくならば、遅れた国はますます遅れてしまい、東西対立の格好の餌食となりかねません。このような観点からも、南北問題は、発展途上国の国民の福祉のためだけでなく、大きくは世界平和樹立のためにも、将来にわたって人類に課せられた大問題といえるでしょう。

トインビー　抑制のない競争心が人間事象の支配原理であり続けるかぎり、人類の富裕少数者と貧困多数者の間の物質的豊かさのギャップも、文化的福祉のギャップも、拡大し続けることでしょう。

人類の富裕少数者の内部では、対立する超大国が世界的権力をめざす危険な競争を

行い、援助供与に名を借りて、貧困諸国を衛星国化しようとし続けることでしょう。こうした援助は、善意のない、裏に含みのある動機からなされるものだけに、被援助国にとっては真の利益にはなりません。富裕国の援助が利害抜きであるかどうかをみる決め手は、貧困国が将来自立できる方向で助力しようとしているのかどうか――この点の努力にあります。また、援助が正しい長期的目標を志向したものであるかどうかをみる決め手は、その物質的援助が精神的援助につながるよう設計されているかどうかです。つまり、物質的向上それ自体が目的となってしまうのでなく、精神的福祉への手段として推進されているかどうかなのです。

池田　おっしゃる通りですね。

ところで、国際政治という場面に限っていえば、ごく少数の未参加国を除けば、ほとんどの国々が国際連合という、平等の発言の広場をもっています。そこでは超大国も小国も平等に一票をもっているため、中小国が自らの意思を表示する格好の場であってしかるべきです。ところが、現実には決して平等ではありません。

これを改めるには、当然、大国の考え方の転換も必要ですが、それ以上に中小諸国が、大国の力に依存せず、中小国同士の結束を強めて、自主独立の道を歩んでいくこ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbo